

戦前日本の社会事業・社会福祉資料

第9期

年金制度

方面委員(方面事業)・委員制度(下)

労働者を対象とした日本初の公的年金制度の成立過程をたどるとともに、救護法施行後の方面委員の活動状況を明らかにする基本資料を集成!

第9期の収録対象としたのは、日本初の一般労働者を対象にした公的年金である労働者年金保険法の成立過程と同保険法の総力戦体制下における厚生年金保険法への変容過程に迫る「年金制度」、および第8期に引き続き1932年以降の「方面委員(方面事業)・委員制度」に関する資料である。収録対象としなかったものも含む関連資料リストも完備し、第一人者による解説とともに、現在の社会福祉活動をルーツに遡って検証することを可能にするための多角的な配慮がなされている。

わが国の社会事業制度形成の歩みを通覧し、今日的問題の歴史的淵源を明らかにするために必読・必備の基礎資料集成である。

【企画・監修】 寺脇隆夫 (元長野大学・浦和大学教授)

【編者】 中尾友紀 (愛知県立大学准教授)
庄司拓也 (淑徳大学非常勤講師)

【体裁】 B5判上製・5112頁・全10巻

【定価】 揃定価308,000円(税込) ※分売不可
ISBN978-4-7601-5429-6

おすすめします

社会福祉学研究者 行政学研究者
社会政策学研究者 日本社会史研究者
生活問題研究者 大学図書館・公共図書館
法学研究者

〒113-0033 東京都文京区本郷 2-15-13
Tel.03-3830-1891 Fax.03-3830-5337
URL http://www.kashiwashobo.co.jp
E-mail eigyo@kashiwashobo.co.jp

柏書房

〈本資料集の特長〉

- ・戦前期に作成された重要な基本資料を精選復刻。本シリーズにより、わが国の社会事業・社会福祉制度史の歩みが一望できる。
- ・明治から大正・昭和の戦前・戦中にかけての時期に人々の生活と社会の中で誕生し、展開された社会事業・社会福祉にかかわる事象を実態資料によって跡づける。
- ・わが国社会事業史・社会福祉史における幅広い分野の基礎資料を半年ごとに順次刊行。戦前期の日本社会全般の研究に活用可能な資料集として、新たなスタンダードとなる。
- ・各種調査資料や入手困難な文献資料も多数収録。幅広い研究に活用できる歴史文献データベースとして研究室必備の資料集。
- ・今後の研究の道標となるように、それぞれの分野の専門家による的確な資料解説を付した。

取	
扱	
店	

刊行にあたって

現在の社会福祉は、近代日本で「慈善事業」・「救済事業」と呼ばれた明治期から、大正～昭和期に発展・拡大した「社会事業」のあゆみとその営みに基盤がある。

日露戦争(1904～05)、米騒動(1918)などを契機に、急速な近代化への波が押し寄せ、人々の生活は新たな貧困や苦難にさらされる。しかし、それらに対処する行政施策や政策は不十分であった。そうしたなか、各分野で民間のさまざまな事業(施設・団体)が登場し、その活動が展開される。わずかながら行政、法制度にも変化がもたらされていく。こうして「社会事業」と呼ばれる営みが形成されていったのである。

だが、盧溝橋事件(1937)により日中戦争が本格化し、軍国主義化の波のなかで、社会事業は「厚生事業」へと変質し、太平洋戦争(1941)によって崩壊してしまう。しかし、第二次大戦後の社会事業の急速な復活・拡大は、新憲法による民主主義体制への変化も影響したが、戦前からの社会事業の基盤があってこそ可能になった。こうして、それらは「社会福祉」と呼ばれるようになったのであり、そうした歴史に学ぶものは数多いと考える。

収録の対象としたのは、当時の社会事業に含まれる数多くの分野・領域での、①戦前期の社会事業体制にかかわる政策・行政、法制、②それらの事業(施設・団体)の活動や利用状況、③それらの背景となった人々の営みや生活実態など、を物語る基礎資料・文献である。

本シリーズは半年ごとに1期ずつ刊行するが、シリーズにとくに順番はなく、1期分は概ね2～4分野・領域の組み合わせとなる。各分野・領域ごとに資料リスト・資料・解説を添付するが、「資料リスト」は、非収録分を含めたものを多数掲載し、「資料」は発刊当時の形態のまま出来るだけ数多く掲載することにした。編者は、社会事業史研究のベテランから若手までの専門家40余人に委嘱し、その執筆になる「解説」で当該分野の流れや資料の位置づけを行なってもらった。

戦前日本の社会事業・社会福祉資料 刊行計画

- 第1期 保育・託児(常設) 子守学校/工場鉱山の保育 棄児・児童虐待【刊行済】
- 第2期 児童の生活状態 浮浪・家出・自殺/私生子 農繁期託児 障害児・障害児施設(上)【刊行済】
- 第3期 児童保護事業 児童相談 児童遊園・児童公園 障害児・障害児施設(下)【刊行済】
- 第4期 浮浪者・ルンペン・乞食 木賃宿・公的宿泊所 物価騰貴・米騒動/経済保護 公設市場 公益質屋 簡易食堂/公設浴場【刊行済】
- 第5期 住宅問題 住宅対策 隣保事業・セツルメント事業【刊行済】
- 第6期 農村社会事業 人身売買/芸娼妓酌婦紹介業 芸娼妓・酌婦/遊廓・花街 廃娼問題/婦人救済施設【刊行済】
- 第7期 女工 職業婦人 朝鮮人(内地居住)【刊行済】
- 第8期 内職・副業 授産事業・授産施設 方面委員(方面事業)・委員制度(上)【刊行済】
- 第9期 年金制度 方面委員(方面事業)・委員制度(下)【刊行済】
- 第10期 職業紹介事業・職業紹介法 母子扶助・母子保護(父子)【2022年6月刊行予定】
- 第11期 健康保険/国民健康保険 水上生活者/水上児童【2022年12月刊行予定】

本シリーズの収録内容

貧困・困窮者(救済・救護・保護/救護法) 浮浪者・ルンペン・乞食・行路病者【第4期】 木賃宿・公的宿泊所(無料・共同・簡易)【第4期】 紙屑拾い・パタヤ/残飯・残食物【第4期】 水上(海上)生活者/水上児童 貧民窟・スラム・不良住宅地区 不良住宅地区改良事業・改良後の生活状況 住宅困窮・住居難(家賃問題)【第5期】 公営住宅/同潤会住宅【第5期】 生計・家計状態 救療/軽費・実費診療/済生会 災害救助(震災・津波・大火)/罹災救助基金法 農業凶作・飢饉 産業災害・鉱工業災害/戦争災害 軍事救護/傷病者・遺家族援護/軍事救護法 軍事徴用・労働動員 桂庵・口入(営利職業紹介) 職業紹介事業・職業紹介法 失業者・失業問題全般 自由労働者(日雇・日稼ぎ・立ちん坊) 女工・職業婦人【第7期】 婦人労働・戦時婦人徴用・統後女子勤労要員 物価騰貴・米騒動/経済保護事業全般【第4期】 公設市場【第4期】	質屋・公益質屋・無産者金融【第4期】 簡易食堂/公設浴場【第4期】 内職【第8期】 授産事業・授産施設【第8期】 隣保事業・セツルメント事業【第5期】 農村社会事業(山村・漁村含む)【第6期】 乳児死亡/出生・死亡状況 妊産婦・乳幼児保健(母子保健) 乳児保護・乳幼児保護 児童の生活状態【第2期】 浮浪・家出・自殺/私生子【第2期】 児童保護事業【第3期】 児童相談【第3期】 児童遊園・児童公園【第3期】 欠食・栄養不良/給食・栄養補給 病虚弱児・病虚弱児対策 障害児・障害児施設【第2・3期】 保育・託児(常設)【第1期】 子守学校/工場鉱山の保育【第1期】 農繁期託児【第2期】 棄児・児童虐待【第1期】 児童養育・育児施設(育児院・孤児院) 昼夜乳児保育(乳児院) 里子・里親/家庭養育委託	貧児教育/不就業問題/就学奨励 児童(幼少年)労働・就業状態 小卒児童の進路・就職状況 少年職業紹介・就職後指導 不良児童・非行少年問題一般 感化院・少年教護院/感化事業 少年院・少年審判所/保護少年 幼年監獄・少年受刑者 母子扶助・母子保護(父子) 女中・家政婦/子守 人身売買/芸娼妓酌婦紹介業【第6期】 芸娼妓・酌婦/公娼・私娼/遊廓・花街【第6期】 廃娼問題/婦人救済施設【第6期】 女給・ホステス 養老事業・養老院/浴風会 盲・不具廃疾・精神薄弱(障害者)/啓成社 精神病者・同療養所 癩病(ハンセン氏病)者・同療養所 結核患者・同療養所 花柳病・性病/同対策 麻薬など薬物中毒者 入獄人・免囚保護/司法保護事業 アイヌ(旧土人保護法) 移民	朝鮮人(内地居住)【第7期】 年金制度【第9期】 失業保険 健康保険・国民健康保険 労災保険 社会保険一般 社会事業一般・名鑑/全国 社会事業一般・名鑑/地域 社会事業要覧・概要/全国 社会事業要覧・概要/各地域別 都市社会事業/都市社会行政 社会事業統計・統計関係 社会事業行財政/社会事業法 社会事業(施設)の奨励助成 方面委員(方面事業)・委員制度【第8・9期】 社会事業施設の連絡団体/社会事業協会 社会事業施設の沿革・年表/視察報告 社会事業施設の私営・公私問題 社会事業施設の経営/寄附/共同募金 社会事業施設の入所利用者・処遇 社会事業施設の従事者・職員/功労者 その他(総合・全般) 戦時体制と社会事業の変容
--	---	---	--

※太字は刊行済、赤字は今期分です。収録対象の呼称は、主に当時の呼称を用いました。刊行時の表題は変更となる場合がございます。

大恐慌による大量失業者、極度の貧困にあえぐ生活困難者を救済すべく社会事業として展開された各種救済策を一望し、戦時下における国民生活の切実な実態を現代に浮かび上がらせる基礎資料群

国民生活保障の問題と国民養老保険制度の確立

国家の発展は国民生活の向上に依る。而して国民生活の向上は、各層の社会的地位を並進せしむるに在り。而して国民生活の向上は、各層の社会的地位を並進せしむるに在り。而して国民生活の向上は、各層の社会的地位を並進せしむるに在り。

戦時下の国民生活は、戦前の国民生活に比し、極めて切迫したものである。戦時下の国民生活は、戦前の国民生活に比し、極めて切迫したものである。戦時下の国民生活は、戦前の国民生活に比し、極めて切迫したものである。

戦時国民生活座談会

戦時下の国民生活は、戦前の国民生活に比し、極めて切迫したものである。戦時下の国民生活は、戦前の国民生活に比し、極めて切迫したものである。戦時下の国民生活は、戦前の国民生活に比し、極めて切迫したものである。

厚生保険制度確立ニ関スル大綱

厚生保険制度の確立は、国民生活の向上に資する。厚生保険制度の確立は、国民生活の向上に資する。厚生保険制度の確立は、国民生活の向上に資する。

労働者年金保険制度展望(一)

労働者年金保険制度の確立は、労働者の生活安定に資する。労働者年金保険制度の確立は、労働者の生活安定に資する。労働者年金保険制度の確立は、労働者の生活安定に資する。

労働者年金保険法と改正共済組合理程概要

労働者年金保険法と改正共済組合理程の概要。労働者年金保険法と改正共済組合理程の概要。労働者年金保険法と改正共済組合理程の概要。

産業戦士の恩給制度 労働者年金保険の話

産業戦士の恩給制度と労働者年金保険の話。産業戦士の恩給制度と労働者年金保険の話。産業戦士の恩給制度と労働者年金保険の話。

第9期の全巻構成

第1巻	年金制度①	(編者：中尾友紀)
第2巻	年金制度②	(編者：中尾友紀)
第3巻	年金制度③	(編者：中尾友紀)
第4巻	年金制度④	(編者：中尾友紀)
第5巻	方面委員(方面事業)・委員制度(下)①	(編者：庄司拓也)
第6巻	方面委員(方面事業)・委員制度(下)②	(編者：庄司拓也)
第7巻	方面委員(方面事業)・委員制度(下)③	(編者：庄司拓也)
第8巻	方面委員(方面事業)・委員制度(下)④	(編者：庄司拓也)
第9巻	方面委員(方面事業)・委員制度(下)⑤	(編者：庄司拓也)
第10巻	方面委員(方面事業)・委員制度(下)⑥	(編者：庄司拓也)

『国民生活保障の問題と国民養老保険制度の提唱』(保険院総務局企画課、1938年6月、美濃部洋次文書)【第1巻】

『戦時国民生活座談会』(1939年6月、『新国策』3巻13号)【第1巻】

『厚生保険制度確立ニ関スル大綱』(国策研究会、1940年1月)【第1巻】

『労働者年金保険制度展望(一)』(1942年1月、『社会保険時報』昭和17年1月号、厚生省保険院)【第2巻】

『労働者年金保険法と改正共済組合理程概要』(東京市電気局労務課、1942年6月)【第3巻】

『産業戦士の恩給制度 労働者年金保険の話』(慶徳庄意、1942年6月、新民書房)【第3巻】

盾後の人々 勤 厚生年金保険の話

局険保省生厚

『厚生年金保険の話：働く人の後盾』(厚生省保険局、1944年10月)【第4巻】

救護法実施と方面委員の責務

救護法実施と方面委員の責務。救護法実施と方面委員の責務。救護法実施と方面委員の責務。

『救護法実施と方面委員の責務』(林市蔵、1932年1月、『社会事業』15巻10号)【第5巻】

方面委員制度ニ関スル事項

方面委員制度ニ関スル事項。方面委員制度ニ関スル事項。方面委員制度ニ関スル事項。

『方面委員制度ニ関スル事項』(無署名、1933年12月、『第六十五回帝国議会／社会局関係参考資料』中の「五九」)【第5巻】

全国方面委員制度概況 昭和七年度

全国方面委員制度概況 昭和七年度。全国方面委員制度概況 昭和七年度。全国方面委員制度概況 昭和七年度。

『全国方面委員制度概況 昭和七年度』(社会局社会部、1934年3月)【第6巻】

東京市方面事務所事業概要

東京市方面事務所事業概要。東京市方面事務所事業概要。東京市方面事務所事業概要。

『東京市市民館・方面館事務所事業概要』(東京市役所、1936年2月)【第7巻】

方面委員制度概況 昭和十年度

年	月	背景と関係事項
1890 (明治23)	11	第1回帝国議会
1891 (明治24)	10	濃尾大地震(死者・行方不明7千人)
1894 (明治27)	7	日清戦争(～1995年4月講和条約)
1896 (明治29)	6	三陸地震・大津波(死者・行方不明2万2千人)
1903 (明治36)	8	日本慈善同盟会(1908年10月中央慈善協会、1921年3月社会事業協会に)
1904 (明治37)	2	日露戦争(～1905年9月講和条約)
1908 (明治41)	9～10	第1回感化救済事業講習会開催(内務省)
1910 (明治43)	8	日韓併合条約締結(1945年まで植民地に)
1911 (明治44)	3	工場法公布(施行日1916年9月ただし深夜業は15年間猶予)
1912 (明治45)	3	第28回帝国議会に福本議員が「養老法案」を提出(審議未了)
1914 (大正3)	7	第一次世界大戦(～1918年11月終結)
1917 (大正6)	7	岡山県で「済世顧問」設置(1921年10月には「済世委員」も設置)、1918年5月に東京府で「救済委員」、同年10月に大阪府で「方面委員」
1918 (大正7)	7～9	米騒動(シベリア出兵を契機とする米価高騰から)
1920 (大正9)	8	内務省官制改正、社会局を新設、22年11月には社会局官制(外局に昇格)
1923 (大正12)	9	関東大震災(死者・行方不明者10万5千人)
1925 (大正14)	3	ラジオ放送(NHK)開始
	4	治安維持法公布
	10	第1回養老事業大会、大阪養老院で開催
1927 (昭和2)	3	金融恐慌
	10	第1回方面委員会議開催
1928 (昭和3)	2	最初の普通選挙(ただし男子のみ)を実施
1929 (昭和4)	4	救護法公布(その施行・実施は未定)
	10	世界恐慌、その波及で昭和恐慌・農村不況(1933年頃まで)
1930 (昭和5)	2	方面委員を中心に救護法実施全国期成同盟会結成
1931 (昭和6)	5	全日本方面委員連盟設立
	9	柳条湖の満鉄線路爆破、それを口実に総攻撃開始(満州事変)
1932 (昭和7)	1	救護法施行(「救護委員」制度実施、方面委員との兼任)、全国養老事業協会設立、7月養老事業大会開催
	5	五・一五事件、その後も1936年の二・二六事件など軍部によるファッショ化する
	3	満州事変をめぐり、日本は国際連盟を脱退
1933 (昭和8)	3	退職積立金及退職手当法公布(失業保険と年金保険の代替、37年1月施設)
1936 (昭和11)	6	社会事業調査会方面委員制度の法制化を決議
	11	方面委員令公布(1937年1月施行)、救護法施行令改正。救護法中の「委員」は方面委員を以て充てることを制度化
1937 (昭和12)	7	中国盧溝橋で日中両軍衝突(盧溝橋事件)、日中戦争本格化。閣議で新設予定の保健社会省(仮称)の組織大綱、決定
1938 (昭和13)	1	厚生省発足(内務省社会局から昇格)、保険院(外局)も発足
	3	第73回帝国議会、福田議員らの養老年金法制定の準備促進に関する建議案、可決
	4	国家総動員法公布
	7	東京市で1940年開催予定の第12回オリンピック大会、中止に
1939 (昭和14)	9	ドイツ軍、ポーランド侵攻、第二次世界大戦始まる
1940 (昭和15)	9	日・独・伊の三国同盟調印
	10	保険院制度調査会、労働者年金保険制度要綱を答申
1941 (昭和16)	3	労働者年金保険法公布(6月に施行)
	12	日本軍、ハワイ真珠湾攻撃、米英へ宣戦布告、太平洋戦争へ
	2	日本軍、ガダルカナル島から撤退、44年マリアナ沖海戦敗北
1943 (昭和18)	2	厚生年金保険法公布(労働者年金保険法を改称、10月施行)
1944 (昭和19)	3	米軍、東京大空襲(大阪、名古屋はじめ全国へ空襲拡大)
1945 (昭和20)	3	広島・長崎へ原爆投下、日本ポツダム宣言受諾・敗戦

『方面委員制度概況 昭和十年度』(社会局社会部、1936年)【第8巻】

第一回長野方面事業委員会知事諮問ニ対スル答申

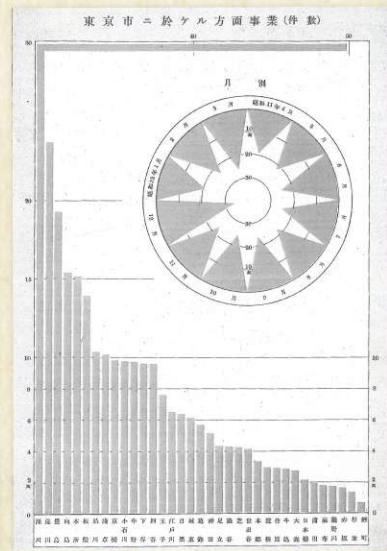
第一回長野方面事業委員会知事諮問ニ対スル答申。第一回長野方面事業委員会知事諮問ニ対スル答申。

『第一回長野方面事業委員会知事諮問ニ対スル答申』(1937年9月)【第8巻】

昭和十四年二月二十二日 東京市婦人方面委員 並訪問婦制度ニ関スル懇談会報告書

昭和十四年二月二十二日 東京市婦人方面委員 並訪問婦制度ニ関スル懇談会報告書。昭和十四年二月二十二日 東京市婦人方面委員 並訪問婦制度ニ関スル懇談会報告書。

『昭和十四年二月二十二日 東京市婦人方面委員 並訪問婦制度ニ関スル懇談会報告書』(東京府社会局保護課、1939年2月)【第9巻】



『東京市ニ於ケル方面事業』(東京市役所、1939年3月、『東京市統計図表』)【第9巻】

委員制度ノ再編成

委員制度ノ再編成。委員制度ノ再編成。委員制度ノ再編成。

『委員制度ノ再編成(松島案)』(松島正儀、1940年5月)【第9巻】

滋賀縣方面委員制度二十年

滋賀縣方面委員制度二十年。滋賀縣方面委員制度二十年。滋賀縣方面委員制度二十年。

『滋賀縣方面委員制度二十年 昭和十六年二月』(滋賀県、1941年3月)【第10巻】

財団法人全日本方面委員聯盟要覽

財団法人全日本方面委員聯盟要覽。財団法人全日本方面委員聯盟要覽。財団法人全日本方面委員聯盟要覽。

『財団法人全日本方面委員聯盟要覽 昭和十六年度』(全日本方面委員聯盟、1941年)【第10巻】